



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2001年 4月13日

出 願 番 号
Application Number:

特願2001-115325

出 願 人
Applicant(s):

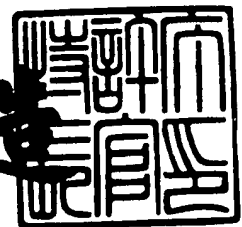
松川 幸弘

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 5月18日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3041265

【書類名】 特許願

【整理番号】 PI725MKY

【提出日】 平成13年 4月13日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/60

【発明者】

 【住所又は居所】 愛知県名古屋市長区鳴海町字砂田 3 番 2

 【氏名】 松川 幸弘

【特許出願人】

 【識別番号】 500212734

 【氏名又は名称】 松川 幸弘

【代理人】

 【識別番号】 100082500

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 足立 勉

 【電話番号】 052-231-7835

【先の出願に基づく優先権主張】

 【出願番号】 特願2000-137363

 【出願日】 平成12年 5月10日

【先の出願に基づく優先権主張】

 【出願番号】 特願2000-318172

 【出願日】 平成12年10月18日

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 007102

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

特 2 0 0 1 - 1 1 5 3 2 5

【包括委任状番号】 0006970

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 広告配信システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 特定の楽曲に広告音声を合成した楽曲データと、特定の画像に広告画像及び広告音声の少なくとも一方を合成した映像データと、の双方又は一方を配信データとして複数種類記憶した記憶手段と、

該記憶手段に記憶された配信データの種別を、所定の通信回線を介して利用者端末に送信すると共に、該利用者端末から前記通信回線を介して入力された要求に従って、利用者が選択した配信データを前記記憶手段から抽出し、前記通信回線を介して前記利用者端末に送信する送信手段と、

を備えたことを特徴とする広告配信システム。

【請求項 2】 前記楽曲データ又は前記映像データは、夫々、前記楽曲又は前記画像の直前及び直後の少なくとも一方に、前記広告音声又は前記広告画像を配置して構成されたことを特徴とする請求項 1 記載の広告配信システム。

【請求項 3】 前記楽曲データ又は前記映像データは、デジタルデータからなり、夫々、前記楽曲又は前記画像の最前部分及び最後部分の少なくとも一方に、前記広告音声又は前記広告画像を重ねて構成されたことを特徴とする請求項 1 記載の広告配信システム。

【請求項 4】 前記広告音声又は前記広告画像は、夫々、前記楽曲又は前記画像から分離可能に構成されたことを特徴とする請求項 2 又は請求項 3 記載の広告配信システム。

【請求項 5】 前記広告音声又は前記広告画像は、夫々、前記楽曲データ又は前記映像データが予め定められた回数視聴された後に、前記楽曲又は前記画像から自動的に分離されることを特徴とする請求項 4 に記載の広告配信システム。

【請求項 6】 前記楽曲データが、前記利用者端末から転送又はコピーされる場合には、前記広告音声は合成された状態で転送若しくはコピーされるか、又は前記楽曲が再生不能な状態にされ、

前記映像データが、前記利用者端末から転送又はコピーされる場合には、前記広告音声及び前記広告画像の少なくとも一方が合成された状態で転送若しくはコ

ピーされるか、又は前記映像が再生不能な状態にされることを特徴とする請求項 5 記載の広告配信システム。

【請求項 7】 前記楽曲データ又は前記映像データは、前記利用者端末から転送又はコピーされる場合に、夫々、視聴不能なロック状態にされ、

前記利用者端末からの要求により当該広告配信システムが送信した所定のパスワードを用いることにより、該ロック状態が解除されることを特徴とする請求項 6 記載の広告配信システム。

【請求項 8】 請求項 1～7 のいずれかに記載の広告配信システムにおいて、さらに、

前記利用者端末の位置情報を検出する検出手段を備え、

前記送信手段は、該検出手段により検出された利用者端末に対し、前記配信データの種類と該配信データの入手方法とを送信し、その後、該入手方法に従って入手要求をした利用者端末に対し、予め定める条件に従って前記配信データを送信することを特徴とする広告配信システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、デジタルコンテンツ等に企業情報等の広告データを挿入して、これを配信するシステムに関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

近年、インターネット等を通じて、音楽、動画、静止画等のデジタルデータ（以下「デジタルコンテンツ」という）を有料で配信する配信システムが知られている。

【0003】

しかし、このようなシステムを利用するユーザは、そのデジタルデータを取得するために一定の料金を支払う必要があるため、そのダウンロードを躊躇することがある。このため、このようなダウンロードの料金は可能な限り安価であることが望ましい。

【 0 0 0 4 】

この際、例えばある演奏家（楽曲）のスポンサーとなっている企業が、自己の企業の宣伝を兼ねて当該当該デジタル配信に費用を投資することができるシステムが構築されれば、楽曲を安価に提供することができ、楽曲を取得したいユーザ側にとっても当該企業側にとっても有益である。さらにこの場合、ユーザが、著名になっていない演奏家（所謂インディーズ）等の楽曲を取得する余裕もできるため、当該演奏家等にとってより多くの作品発表の場を提供できるという相乗効果をも期待できる。

【 0 0 0 5 】

また、楽曲にかかる著作権を侵害することなく、視聴者の満足する楽曲を無料でダウンロードできる音楽配信システムこそが、今求められているシステムであることは世界の共通認識である。しかし、その音楽配信の事業プランは未だ存在しない。

【 0 0 0 6 】

本発明は、このような問題に鑑みてなされたものであり、デジタルコンテンツ等に併せて広告情報を配信するシステムの構築において、ユーザ、広告主、著作者の利益となり、それにより、情報通信産業の活性化を図ることができる広告配信システムを提供することを目的とする。

【 0 0 0 7 】

【課題を解決するための手段】

上記課題に鑑み、請求項 1 に記載の広告配信システムにおいては、記憶手段が、特定の楽曲に広告音声を合成した楽曲データと、特定の画像に広告画像及び広告音声の少なくとも一方を合成した映像データと、の双方又は一方を配信データとして複数種類記憶している。

【 0 0 0 8 】

ここでいう「特定の楽曲」としては、現在人気のあるアーティストや所謂インディーズ等の楽曲のように、企業等がスポンサーとなり得る様々な演奏家の楽曲が採用される。同様に、「特定の画像」としては、人気のある映画やプロモーションビデオ等の画像のように、企業等がスポンサーとなり得る様々な画像が採用

される。これらの楽曲や画像は、当該広告配信システム自らが予め保有する態様であってもよいし、或いは、現状のインターネット上に開設されている音楽配信サイト等から受信して取得する態様であってもよい。

【 0 0 0 9 】

この特定の楽曲又は映像（以下、これらを「楽曲等」ともいう）には、例えば配信料金と引き換えに、自社の宣伝広告を望む企業等の広告音声や広告画像が合成されている。このため、楽曲データが再生されると、当該楽曲と共に広告音声流れることになり、映像データが再生されると、当該映像と共に広告音声や広告画像が流れることになる。

【 0 0 1 0 】

そして、当該広告配信システムの運用においては、送信手段が、この記憶手段に記憶された配信データの種別を、広域ネットワーク等の所定の通信回線を介して利用者端末に送信する。そして、利用者端末からこの通信回線を介して入力された要求に従って、利用者が選択した配信データを記憶手段から抽出し、利用者端末に送信する。

【 0 0 1 1 】

このため、この楽曲データ又は映像データをダウンロードして取得した利用者は、これらの楽曲又は映像を再生した際に自動的に流れる広告音声や広告画像を視聴することになる。

従って、企業等は、有料であっても何万枚と売れる程のセンスの良い楽曲等に、自社の企業情報を重ねることで、カレンダー、手帳、うちわ、タオル等に自社の企業情報を刷り込むのでは図れないイメージアップが図れる。しかも、配布単価はこれらの物品と同様、安価に抑えられる。これは、配布物が物理的な形を有するものではなく、単なるデータだからこそ実現できる。

【 0 0 1 2 】

また、利用者は、何度も繰返し視聴するためにその楽曲等をダウンロードするのであるから、何処か、違う場所でその楽曲等を視聴しても、その企業情報を出してしまうことになる。その楽曲等と企業イメージが連携して記憶に刷り込まれてしまうからである。一般にコマーシャル（CM）ソングは、同上の効果を

狙ったものであるが、この広告配信システムによれば、CMソングをテレビやラジオ等を使って流さなくても、極めて低コストで同様の効果が得られる。

【0013】

一方、演奏家の側からは、CMソングが、自らを著名にするものとして非常に注目されている。それは、一般大衆が無料で何度も耳にする機会があり、しかも商品と併せて記憶され、記憶を呼び起こされる機会が多いからである。従って、チャンスがあればCMソングをやりたいと思っている演奏家は非常に多く、実際そうなるとその演奏家は著名になっていく。この広告配信システムによれば、まだ著名になっていない演奏家達に、著名になる機会をより多く与えることができる。またそれにより、利用者は、新しい演奏家の楽曲等をより多く耳にする機会をもつことができる。

【0014】

ただし、利用者にとっても演奏者にとっても、楽曲等そのものに価値があるので、広告音声や広告画像が目立ち過ぎると好ましくない現象が生じる。

そこで、請求項2に記載のように、楽曲データについては、楽曲の直前及び直後の少なくとも一方に、広告音声を配置して構成するのがよい。

【0015】

例えば、楽曲等の始まり若しくは終わりの5秒程度に、演奏家、楽曲等の紹介と共に企業情報を違和感なく流すのが好ましい。この際、可能な限り音量等を低く設定するのが好ましい。

同様に、映像データについても、画像の直前及び直後の少なくとも一方に、広告音声又は広告画像を配置して構成するのがよい。

【0016】

また、このように楽曲等の前後に広告音声や広告画像を配置するのではなく、これらを楽曲等に重ねて構成することもできる。これは、請求項3に記載のように、楽曲データ又は映像データをデジタルデータから構成することで実現できる。

【0017】

すなわち、この場合、楽曲の最前部分及び最後部分の少なくとも一方に、広告

音声を重ねられる。また、画像の最前部分及び最後部分の少なくとも一方に、広告音声又は広告画像が重ねられる。

しかし、利用者にとっては、視聴の度にこの広告音声や広告画像が毎回現れるのに我慢ができなくなる場合も想定される。特に自分が特別気に入った楽曲等を視聴する場合にはなおさらである。

【 0 0 1 8 】

そこで、請求項 4 に記載のように、上記広告音声又は広告画像を、夫々、楽曲又は画像から分離可能に構成するのもよい。

このように構成することで、利用者は、広告音声等の分離後は、気分を害されることもなく、自分の視聴したい楽曲等のみを何度も視聴することができる。

【 0 0 1 9 】

一方、広告音声等は、利用者によって意識され、分離されるまでの数回（少なくとも一回）は視聴されると考えられる。また、分離可能であるとはいっても、データ処理についてある程度の知識がある者でないと分離作業を行うのは事実上困難である。このため、企業側にとっても一定の宣伝広告の効果が得られると考えられる。

【 0 0 2 0 】

しかし、本広告配信システムが将来的に周知となり、利用者が楽曲等のデータを取得して早々に広告音声等を分離してしまうことも懸念される。

そこで、請求項 5 に記載のように、広告音声又は広告画像が、夫々、楽曲データ又は映像データが所定回数視聴された後に、楽曲又は画像から自動的に分離されるように構成してもよい。

【 0 0 2 1 】

具体的には、例えば後述する実施例でも述べるように、利用者端末に対して楽曲等のデータを送信する際に、分離用の実行ファイルを添付して送信することが考えられる。

この際、所定回数の視聴が行われるまでは、ある程度知識を有する者でも分離不能に構成するのが好ましい。

【 0 0 2 2 】

かかる構成により、所定回数の広告音声又は広告画像の視聴が常に確保されることになり、企業側は常に一定以上の宣伝効果を確保することができる。

また、かかる構成によれば、データ処理に知識のない利用者にとっても、所定回数の視聴の後に、広告音声又は広告画像が自動的に分離されることで、自分の視聴したい楽曲等のみのデータを確実に取得することができる。また、最終的に完全な形の音楽が無料で手に入るのであれば、あえて法律に触れるかもしれない行為や自分の好きなミュージシャンの権利を損なう行為を行うこともなくなる。従って、本広告配信システムの利用が促進され、その結果、企業等の宣伝広告の効果も飛躍的に高められる。

【 0 0 2 3 】

このように、「楽曲等に重ねた企業広告を所定回数カウントして外す」という構成により、著作権者、ユーザー、広告配信企業、そして音楽関係企業の4者のニーズを満たす事業モデルが完成することになる。

また、楽曲データや映像データは、利用者端末に送信された後、転送又はコピーにより他者に取得されることが想定される。この場合、何らの処置も施さなければ、当該他者は広告音声や広告画像が分離された楽曲そのものを無償で取得することになり、企業側が配信料支払いに見合った代償が得られないという事態も懸念される。

【 0 0 2 4 】

そこで、請求項6に記載のように、上記楽曲データが利用者端末から転送又はコピーされる場合には、広告音声が合成された状態で転送若しくはコピーされるか、又は楽曲が再生不能な状態にされるように構成するとよい。また、上記映像データが利用者端末から転送又はコピーされる場合には、広告音声及び広告画像の少なくとも一方が合成された状態で転送若しくはコピーされるか、又は映像が再生不能な状態にされるように構成するとよい。

【 0 0 2 5 】

かかる構成は、例えば、上記楽曲等のデータがダウンロードされた利用者端末以外の端末に当該データが転送又はコピーされる際に、別途用意された広告音声付きのデータを転送する機能を上記実行ファイルにプログラムしておくことによ

り実現できる。

【 0 0 2 6 】

尚、その際、転送先又はコピー先に対して、当該楽曲等のデータと共に分離用の実行ファイルを送信することにより、所定回数視聴された後に上記と同様の分離処理が実行されるように構成することができる。

また、このようにして転送又はコピーされた事実が、企業側或いは当該広告配信システムの運営者側に全く把握出来ない状態では、その宣伝効果（配信効果）を評価することができない。また、楽曲等の著作者に不利益を与える虞がある。

【 0 0 2 7 】

そこで、請求項 7 に記載の広告配信システムでは、楽曲データ又は映像データが、利用者端末から転送又はコピーされる場合に、夫々、楽曲データ又は映像データの視聴が不能のロック状態にされる。そして、利用者端末からの要求により当該広告配信システムが送信した所定のパスワードを用いることにより、このロック状態が解除される。

【 0 0 2 8 】

かかる構成は、例えば楽曲等のデータのファイル情報の一部に所定の管理データを付加し、そのデータとの照合で、コピー回数、視聴回数等を管理するように構成することもできる。さらに、専用プレーヤーにてダウンロードした楽曲等のデータにファイル保存場所等を全て管理し、その管理下ないと再生できないように構成することもできる。

【 0 0 2 9 】

かかる構成によれば、広告配信システムの運営者側は、このパスワードの要求回数により転送又はコピーの回数等を把握したり、その配信元企業名、転送された地域の情報等を取得することができる。また、それにより、楽曲の著作権者に対する公正な使用料の算出が可能となり、楽曲の提供が受けられることとなる。さらに、企業側は、宣伝広告の効果を具体的数値として認識することができる。

【 0 0 3 0 】

ところで、インターネット等の広域ネットワークを介した電子メールは、広告宣伝媒体として多く使われている。ごく一般的なものとして、メールにある種の

特典を与え、利用者のメールアドレスを聞き出し、本人の了解のもと、企業情報付きのメール若しくは、企業情報そのものを配信するというものである。

【 0 0 3 1 】

しかし、その特典を与えるためには、企業広告、商品広告、或いはマーケティング調査等のスポンサー企業のニーズを満たさなければならず、制度としては登録制として、その登録時等に若しくはメール配信の都度、多くの個人のプロフィール項目やアンケートに答えさせるざるを得ない。また、場合によっては個人のプライバシーまで答えざるを得ない。

【 0 0 3 2 】

さらに、利用者側からは、一旦メール配信の許可を与えると、配信されるメールは必ず受け取らなければならず、通常メールの利用に支障をきたす場合も多い。

そこで、請求項 8 に記載の広告配信システムでは、検出手段が、利用者が保有する利用者端末としての携帯端末の位置情報を検出する。具体的には、この検出手段は、例えば後述する実施例において述べるように、GPS を利用した位置情報サービス、或いは PHS の基地局を利用した位置情報サービスを利用して、携帯端末の位置情報を検出する。

【 0 0 3 3 】

そして、送信手段が、この検出手段により検出された特定の携帯端末にのみ、配信データの種類とこの配信データの入手方法を送信する。そして、この入手方法に従って携帯端末から入手要求をした利用者に対し、予め定める条件に従って、上記配信データの送信を行う。

【 0 0 3 4 】

かかる構成では、事前登録制の利用者参加型のメール配信が可能となる。この場合、利用者がこれに参加する場合には、予めメール等により設定された場所に足を運ばなければならない。しかし、検出手段が位置情報により配信対象を特定するため、利用者の詳細情報が分からなくても、電話番号とメールアドレスさえ分かれば情報を配信することが可能である。かかる広告配信システムは、百貨店への集客、イベントへの集客、地域振興策等様々な場面での応用が可能である。

【 0 0 3 5 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の好適な実施例を図面に基づいて説明する。

[第 1 実施例]

本実施例に係る広告配信システムは、好みの音楽を入手したいユーザと、自社の宣伝広告を行いたい企業（広告主）とが、インターネット上の音楽配信企業（サービスセンタ）を介して利用するものである。

【 0 0 3 6 】

図 1 は、本実施例の広告配信システムの全体構成を表すブロック図である。

同図に示すように、広告配信システム 1 は、広域ネットワークとしてのインターネット 2 に接続されたサービスセンタ 3 から登録顧客の端末に対して楽曲データを提供するシステムとして構築されている。広告配信システム 1 は、多数の会員により利用され得るが、本実施例においては説明の便宜上、サービスセンタ 3 に自社の宣伝広告を依頼するある企業と、ある一般ユーザにより利用された例を示す。従って、同図においては、当該企業の端末である企業端末 4 と当該一般ユーザの端末であるユーザ端末 5 とが、ISP（Internet Service Provider）6 を介してインターネット 2 に接続されている。

【 0 0 3 7 】

尚、同図では、説明の便宜上、ISP 6 一つを示しているが、各端末が異なる ISP を介してインターネット 2 に接続してもよいことはいうまでもない。また、本実施例において、ユーザ端末 5 が利用者端末に該当する。

サービスセンタ 3 は、専用の WWW（World Wide Web）サーバを保有しており、ISP 6 を介してインターネット 2 に接続された企業端末 4 又はユーザ端末 5 からの要求に従って情報を提供すると共に、企業端末 4 又はユーザ端末 5 との間で所定の通信を行う。

【 0 0 3 8 】

一方、企業端末 4 及びユーザ端末 5 には、キーボードやマウス等の入力装置や、サービスセンタ 3 の WWW サーバから提供される情報を表示するための表示装置が設けられている。このため、広告配信システム 1 の利用者は、表示装置に表

示される画面に従って入力装置により入力することにより、所定の手続を行ったり、所望の商品、サービス、その他の情報を選択して入手することができる。尚、企業端末4及びユーザ端末5とISP6とを接続する通信手段としては、一般的な電話回線網を使ってISP6に接続するためのモデムやターミナルアダプタ等の電話用通信装置でもよいし、或いは、携帯電話、PHS等の無線電話用通信装置であってもよい。

【0039】

サービスセンタ3のデータベースには、現在人気のあるアーティストや所謂インディーズ等のように、企業等がスポンサーとなり得る様々な演奏家の楽曲のデータと、スポンサー企業の要請により作成された配信データが多数格納されている。

【0040】

この配信データは、企業がその宣伝広告のために選択した特定の楽曲に広告音声を合成して形成された楽曲データとして構成されている。具体的には、この楽曲データは、デジタルデータとして構成されており、図2(a)に示すように、楽曲の直前及び直後に広告音声を配置して構成されるか、又は、同図(b)に示すように、楽曲の最前部分及び最後部分に広告音声が部分的に重ねられて構成されている。このため、当該楽曲データが再生されると、当該楽曲と共に広告音声が行れるようになる。

【0041】

尚、この広告音声は、楽曲を聴く者が特に気にならないように5秒程度の長さに設定されている。また、この楽曲データはデジタルデータからなるため、後述のように所定の処理により、楽曲と広告音声を分離することができる。

次に、広告配信システム1の具体的な運用方法について、図3～5に示すフローチャートに基づいて説明する。

【0042】

まず、企業及び一般ユーザが広告配信システム1を利用するために行われる登録処理について、図3のフローチャートに沿って説明する。

企業及び一般ユーザは、広告配信システム1を利用するために、まず企業端末

4 又はユーザ端末 5 を I S P 6 を介してインターネット 2 に接続し、サービスセンタ 3 への接続指令を入力する（S 1 1 0）。

【 0 0 4 3 】

サービスセンタ 3 側では、企業端末 4 又はユーザ端末 5 からの接続があるか否かを判断し（S 2 1 0）、その接続があったと判断すると（S 2 1 0 : Y E S）、個別情報を要求する（S 2 2 0）。この個別情報には、企業であれば、その名称、業種、業態、居所等といった属性を表す情報等が含まれ、一般ユーザであれば、その氏名、電話番号、住所、職種、メールアドレス等といった属性を表す情報等が含まれる。尚、この個別情報は、企業の担当者又は一般ユーザが、その端末の表示装置に表示された選択画面に沿って所定の入力装置により入力する。

【 0 0 4 4 】

このとき、企業端末 4 又はユーザ端末 5 から個別情報の入力がなく、その受信が確認されない場合には（S 2 3 0 : N O）、サービスセンタ 3 は、企業又は一般ユーザに会員登録の意思がないと判断し、登録処理を終了する。

一方、企業端末 4 又はユーザ端末 5 から個別情報が入力され（S 1 2 0）、サービスセンタ 3 においてその受信が確認された場合には（S 2 3 0 : Y E S）、サービスセンタ 3 は、その個別情報を自身のデータベースに格納する。そして、企業又は一般ユーザが広告配信システム 1 を利用する際の認証等に用いる識別情報（識別 I D やパスワード等）を決定する（S 2 4 0）。

【 0 0 4 5 】

そして、サービスセンタ 3 は、企業端末 4 又はユーザ端末 5 に対してこの識別情報を発行し（S 2 5 0）、企業又は一般ユーザはこれを取得する（S 1 3 0）。

次に、広告配信システム 1 による配信データ（楽曲データ）の登録処理について、図 4 に示すフローチャートに沿って説明する。

【 0 0 4 6 】

サービスセンタ 3 が開設するインターネット 2 上のサイトには、企業情報としての広告音声を合成して配信できる楽曲の一覧情報とその価格が公開されている。自社の企業情報の配信を希望する企業（広告主）は、企業端末 4 を I S P 6 を

介してインターネット2に接続し、サービスセンタ3への接続指令を入力する（S310）。

【0047】

サービスセンタ3は、その接続があったと判断すると（S410：YES）、企業端末4に対して、広告音声を合成して配信できる楽曲の一覧情報、その条件、及びその価格を提示すると共に、上述した識別情報を要求する（S420）。このとき、企業端末4からの識別情報の入力がなく、その受信が確認されない場合には（S430：NO）、サービスセンタ3は、当該企業が本システムの会員ではない、又は本システムの利用の意思がないと判断し、処理を終了する。

【0048】

一方、企業端末4から識別情報が入力され（S320）、サービスセンタ3においてその受信が確認された場合には（S430：YES）、サービスセンタ3は、その識別情報を用いて認証処理を行う（S440）。このとき、認証が行われない場合には（S450：NO）、処理を終了する。

【0049】

そして、S450において、認証が正常に行われた場合には（S450：YES）、続いて、企業が配信を希望する広告の内容、希望する楽曲名、配信希望数量（配信回数）等を要求する（S460）。このとき、希望情報の入力が行われず、これを受信できない場合には（S470：NO）、処理を終了する。

【0050】

一方、企業端末4から希望情報が入力され（S330）、これを受け取った場合には（S470：YES）、サービスセンタ3は、希望情報に沿った配信データを作成する。つまり、上述した合成処理を実行する。そして、サービスセンタ3は、作成した配信データを企業端末4に送信すると共に、その内容で一般ユーザに提供することについての承認を要求する（S480）。

【0051】

そして、企業端末4から入力された承認可否通知により、承認されたと判断した場合には（S490：YES）、当該配信データを一般ユーザ向けのサイトにアップロードし、企業端末4に対してその完了通知を行う（S500）。企業は

、その情報を取得する（S 3 5 0）。

【0 0 5 2】

次に、一般ユーザが楽曲データ（配信データ）を取得する際の、広告配信システム1による配信処理について、図5に示すフローチャートに沿って説明する。

サービスセンタ3のサイトには、上述のようにしてアップロードされた配信データ（楽曲データ）の一覧が、一般ユーザ向けに公開されている。

【0 0 5 3】

楽曲データの取得を希望する一般ユーザは、ユーザ端末5をISP6を介してインターネット2に接続し、サービスセンタ3への接続指令を入力する（S 5 1 0）。

サービスセンタ3は、その接続があったと判断すると（S 6 1 0 : YES）、ユーザ端末5に対して、配信可能な楽曲の一覧情報を提示すると共に、上述した識別情報を要求する（S 6 2 0）。このとき、ユーザ端末5からの識別情報の入力がなく、その受信が確認されない場合には（S 6 3 0 : NO）、サービスセンタ3は、当該一般ユーザが本システムの会員ではない、又は本システムの利用の意思がないと判断し、処理を終了する。

【0 0 5 4】

一方、ユーザ端末5から識別情報が入力され（S 5 2 0）、サービスセンタ3においてその受信が確認された場合には（S 6 3 0 : YES）、サービスセンタ3は、その識別情報を用いて認証処理を行う（S 6 4 0）。このとき、認証が行われない場合には（S 6 5 0 : NO）、処理を終了する。

【0 0 5 5】

そして、S 6 5 0において、認証が正常に行われた場合には（S 6 5 0 : YES）、続いて、一般ユーザが配信を希望する楽曲名等を要求する（S 6 6 0）。このとき、希望情報の入力が行われず、これを受信できない場合には（S 6 7 0 : NO）、処理を終了する。

【0 0 5 6】

一方、ユーザ端末5から希望情報が入力され（S 5 3 0）、これを受け取った場合には（S 6 7 0 : YES）、サービスセンタ3は、自己のデータベースを検

索して該当する配信データを抽出し、ユーザ端末5にこれを送信する（S 6 8 0）。このとき、後述する広告音声の分離処理に用いられる「カウント管理ファイル」と「カウント管理プログラム」も同時に配信される。一般ユーザは、これをダウンロードすることができる（S 5 4 0）。

【0 0 5 7】

このようにして一般ユーザが取得した楽曲データ（配信データ）には、上述した広告音声が含まれているが、上記カウント管理プログラムが実行されることにより、一般ユーザが当該楽曲（つまり広告音声）をn回（本実施例では5回）試聴すると、自動的に広告音声が楽曲から分離されるようになっている。このため、一般ユーザは、それ以降その楽曲のみを何度でも聴くことができる。尚、この試聴回数n回については、企業側の要望等を考慮してサービスセンタ3側で適宜設定することができる。

【0 0 5 8】

以下、このカウント管理プログラムにより実行される処理について、図6のフローチャートに基づいて説明する。このカウント管理プログラムは、例えば数十バイト程度の極めて小さなプログラムからなり、ユーザ端末5の所定の領域に常駐し、ユーザが上記楽曲データを再生する度に自動的に実行されるものである。

【0 0 5 9】

ユーザによる所定の操作により楽曲の再生要求があると（S 7 1 0 : Y E S）、まず楽曲データの種類が判別される（S 7 2 0）。ここでは、再生しようとする楽曲データが、上述のようにしてサービスセンタ3から正規にダウンロードされたデータか、又は、あるユーザにより転送された転送データであるかが判別される。

【0 0 6 0】

そして、転送データでない（つまり正規の楽曲データである）と判定された場合には（S 7 3 0 : N O）、カウント管理ファイルに記録されたカウント数を参照して、ユーザによる楽曲の再生回数（試聴回数）を検出する（S 7 7 0）。

そして、再生回数がn回以上であるか否かが判定され（S 7 8 0）、n回以上である場合には（S 7 8 0 : Y E S）、カウント管理プログラムによる所定の処

理を行って楽曲データから広告音声を分離して楽曲を再生する（S 7 9 0）。そして、カウント管理ファイルの再生回数を加算して処理を終了する（S 8 1 0）。

【 0 0 6 1 】

一方、S 7 8 0において、再生回数がn回以上でないと判定された場合には（S 7 8 0 : N O）、上記分離処理は行わず、広告音声が合成された状態の楽曲を再生する（S 8 0 0）。そして、カウント管理ファイルの再生回数を加算して処理を終了する（S 8 1 0）。

【 0 0 6 2 】

これにより、ユーザは、n回の試聴を行うまでは広告音声が合成された状態の楽曲を聴くことになるが、それ以降は純粋な楽曲のみを聴くことができる。

すなわち、上記カウント管理プログラムの実行により、企業側は、一般ユーザによる広告音声の試聴が常に一定以上確保されることになり、その結果、一定以上の宣伝効果を確保することができる。一方、一般ユーザ側は、たとえデータ処理に知識がなくても所定回数の視聴の後に、広告音声が自動的に分離されることで、自分の視聴したい楽曲等のみのデータを確実に取得することができる。このため、当該広告配信システム1の利用が促進され、その結果、企業等の宣伝広告の効果も飛躍的に高められる。

【 0 0 6 3 】

一方、S 7 1 0において再生要求がなく（S 7 1 0 : N O）、転送要求があった場合には（S 8 2 0 : Y E S）、転送用のデータ、カウント管理プログラム、及びカウント管理ファイルが送信される（S 8 3 0）。ただし、この転送用データは、後述する所定のパスワードの入力がないと再生できないようにロックされている。

【 0 0 6 4 】

この転送用データは、広告音声が合成された楽曲データである。つまり、上述のS 7 9 0で一旦広告データが分離された場合でも、転送時には、これとは別に用意された広告音声付きの楽曲データが送信されることになる。また、カウント管理ファイルも、別途用意されたファイルであり、その再生回数のカウント値が

0 のものが送信される。

【0065】

このため、転送した相手方ユーザも、少なくとも n 回の試聴をした後でなければ、広告音声が分離された楽曲を取得することはできない。このため、安易な転送により企業の宣伝広告が阻害されることはなく、逆にこの転送により、宣伝広告率を向上させることができる。

【0066】

また、S730において、このような転送データであると判定された場合には（S730：YES）、ユーザに対して上記パスワードを要求する（S740）。このパスワードは、ユーザがサービスセンタ3にアクセスすることにより無料で発行されるものである。

【0067】

そして、ユーザからこのパスワードの入力があった場合には（S750：YES）、再生のロックが解除され、転送データが通常の楽曲データとして再生可能になる（S760）。一方、パスワードの入力がない場合には（S750：NO）、処理を終了する。

【0068】

このようにパスワードを設定することで、広告配信システム1の運営者側は、このパスワードの要求回数により、ユーザによる転送回数等を把握したり、その配信元企業名、転送された地域の情報等も取得できる。また、それにより、楽曲の著作権者に対する公正な使用料の算出が可能となり、楽曲の提供が受けられることとなる。さらに、企業側は、この転送回数の把握により、宣伝広告の効果を具体的数値として認識することができる。

【0069】

尚、本実施例においては、図4のフローチャートに示したS500の処理が記憶手段としての処理に該当し、図5のフローチャートに示したS660～680の処理が送信手段としての処理に該当する。

〔第2実施例〕

本実施例は、位置情報により抽出した携帯端末に対して金銭引換権付きメール

を配信するシステムに、本発明の広告配信システムを適用した例である。尚、本実施例の広告配信システムの全体構成等については、上記第 1 実施例にて説明したものと同様であるため、その説明を省略する。

【 0 0 7 0 】

図 7 は、本実施例に係る広告配信システムの具体的運用を表すフローチャートである。

まず、一般ユーザは、予めサービスセンタ 3 にアクセスして、自己の携帯電話の電話番号とメールアドレスを登録しておく。そして、サービスセンタ 3 からは、このメールアドレスに基づいて、無料で取得できる楽曲データの配信情報（楽曲の内容、配信場所、配信時刻等）がメール配信される。

【 0 0 7 1 】

ユーザ端末 5 にてこのメールを受信した一般ユーザは、その楽曲を取得したくなった場合には、指定された配信時刻までに指定の配信場所に足を運ぶ。

そして、サービスセンタ 3 は、設定時刻になったと判断すると（S 9 1 0 : Y E S）、ユーザの電話番号を手がかりに、GPS を利用した位置情報サービス、若しくは PHS の基地局を利用した位置情報サービスを利用して、当該携帯端末の位置情報を検出する（S 9 2 0）。このとき、予め指定した特定の場所から半径 R（m）以内にいる会員の電話番号が抽出される。尚、この半径 R（m）については、サービスセンタ 3 側で適宜設定することができる。

【 0 0 7 2 】

そして、抽出された会員の電話番号に合致したメールアドレスに対し、楽曲データを取得するためのアクセスアドレスとパスワードを送信する（S 9 3 0）。

そして、ユーザが自己の携帯端末からこのアクセスアドレスとパスワードを入力し（S 1 0 1 0）、その情報を受信すると（S 9 4 0）、そのユーザの携帯端末に対して楽曲データを配信する（S 9 5 0）。この楽曲データには、上述したスポンサー企業の広告音声が含まれている。

【 0 0 7 3 】

そして、予め限定された人数への配信が完了したか否かが判断され（S 9 6 0）、その人数への配信が完了するまで配信が繰り返される（S 9 4 0 ~ S 9 6 0）。

）。

そして、配信が完了したと判断すると（S 9 6 0 : Y E S）、それ以降にアクセスしたユーザに対して配信終了の旨を通知する（S 9 7 0）。

【 0 0 7 4 】

一般ユーザは、楽曲データ又は配信完了通知を受け取る（S 1 0 2 0）。

尚、その後行われる楽曲データの分離処理等については、第 1 実施例と同様であるので、説明を省略する。

このように、本実施例の広告配信システムは、位置情報を検出することで、特定の場所にいる会員に対してのみ、楽曲データを配信する。つまり、参加したいときだけ参加することが可能な事前登録制の利用者参加型のメール配信システムとして構成されている。

【 0 0 7 5 】

従って、極論すれば、ユーザは、サービスセンタ 3 に対して、自己の氏名、その他のプライバシーにかかわることを一切開示せずに、メールアドレスと電話番号のみを登録することで、楽曲等のコンテンツデータを入手することができる。また、第 1 実施例と同様に、楽曲データには広告音声が合成されているため、企業側のニーズを満たすこともできる。

【 0 0 7 6 】

この場合、利用者参加型ということで、自宅、職場、学校等利用者の通常の生活圏を除外したいときは、市外局番と市内局番を登録すれば除外できる。百貨店への集客、イベントへの集客、地域振興策等様々な場面での応用が可能である。

以下に、本実施例を適用した具体的事例を示す。

〔具体的事例〕

今日のメールは、いつもの広告メールと違う。歌手 A の新曲の発売イベントの情報らしい。メールの指示に従い指定されたアドレスに携帯端末からアクセスしてみる。8 月 3 日、午後 2 時、渋谷交差点とある。

【 0 0 7 7 】

同日、同所で午後 1 時 5 0 分突然携帯の着信ランプが光った。そして、アクセスアドレスとパスワードが配信されてきた。ここ渋谷に、今いるメールサービス

会員にだけ配信されるパスワードだ。先着 5, 0 0 0 名。受付は午後 2 時 1 0 分からだ。

【 0 0 7 8 】

ちょうど 2 時、渋谷の 3 つのオーロラビジョンに歌手 A が映し出された。明日発売の新曲プロモーションビデオが 2 回流れる。フルコーラスで見られるのはここが最初だ。そして、2 時 1 0 分。パスワードを受け取った会員は、配信されたパスワードを携帯に打ち込みはじめた。先着 5, 0 0 0 名だけの、新曲の無料ダウンロードが一斉に始まった。ここでダウンロードした曲には、特別に歌手 A 本人のメッセージが同時に入っている。今回は歌手 A がチャリティーとして寄付をする企画だったが、今後は、通常どおり、彼女の曲にも企業広告が入る。曲の紹介は、有名な DJ がするので逆に期待できる。

【 0 0 7 9 】

新譜がいつもただで手に入るようになってから、有料ダウンロードを利用する必要がない。インディーズはほとんど全部無料ダウンロードであり、メジャーな歌手も、新譜は、このような無料ダウンロードの企画が多くて困らない。当然、この情報は、位置情報得を利用した携帯メールサービスでしかつかめない。

【 0 0 8 0 】

尚、本実施例においては、図 7 のフローチャートに示した S 9 2 0 の処理が検出手段としての処理に該当する。

以上、本発明の実施例について説明したが、本発明の実施の形態は、上記実施例に何ら限定されることなく、本発明の技術的範囲に属する限り種々の形態をとり得ることはいうまでもない。

【 0 0 8 1 】

例えば、上記実施例では、サービスセンタ 3 が、楽曲及び広告情報を管理する態様としたが、サービスセンタ 3 が既存の楽曲サーバや広告サーバからこれらを取得し、合成処理をする構成としてもよい。また、楽曲に限らず、画像やその他のデジタルコンテンツを広告媒体としてもよいことはもちろんである。

【 0 0 8 2 】

また、上記実施例では、配信データの転送等の際に、別途用意した広告音声付

き配信データを送信する構成としたが、カウント管理プログラムに合成処理機能を付加し、一旦分離された広告音声を再度合成して送信するように構成してもよい。

【 0 0 8 3 】

さらに、上記実施例では、一般ユーザにより取得された楽曲データが他者の端末に転送された場合の例を示したが、例えば専用のプレーヤー（m p 3 プレーヤー等）に転送等された場合も同様の構成をとることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の第 1 実施例に係る広告配信システムの全体構成を表すブロック図である。

【図 2】 第 1 実施例の広告配信システムにて配信される楽曲データの構成を表す説明図である。

【図 3】 第 1 実施例の広告配信システムの具体的運用を表す説明図である。

【図 4】 第 1 実施例の広告配信システムの具体的運用を表す説明図である。

【図 5】 第 1 実施例の広告配信システムの具体的運用を表す説明図である。

【図 6】 第 1 実施例の広告配信システムの具体的運用を表す説明図である。

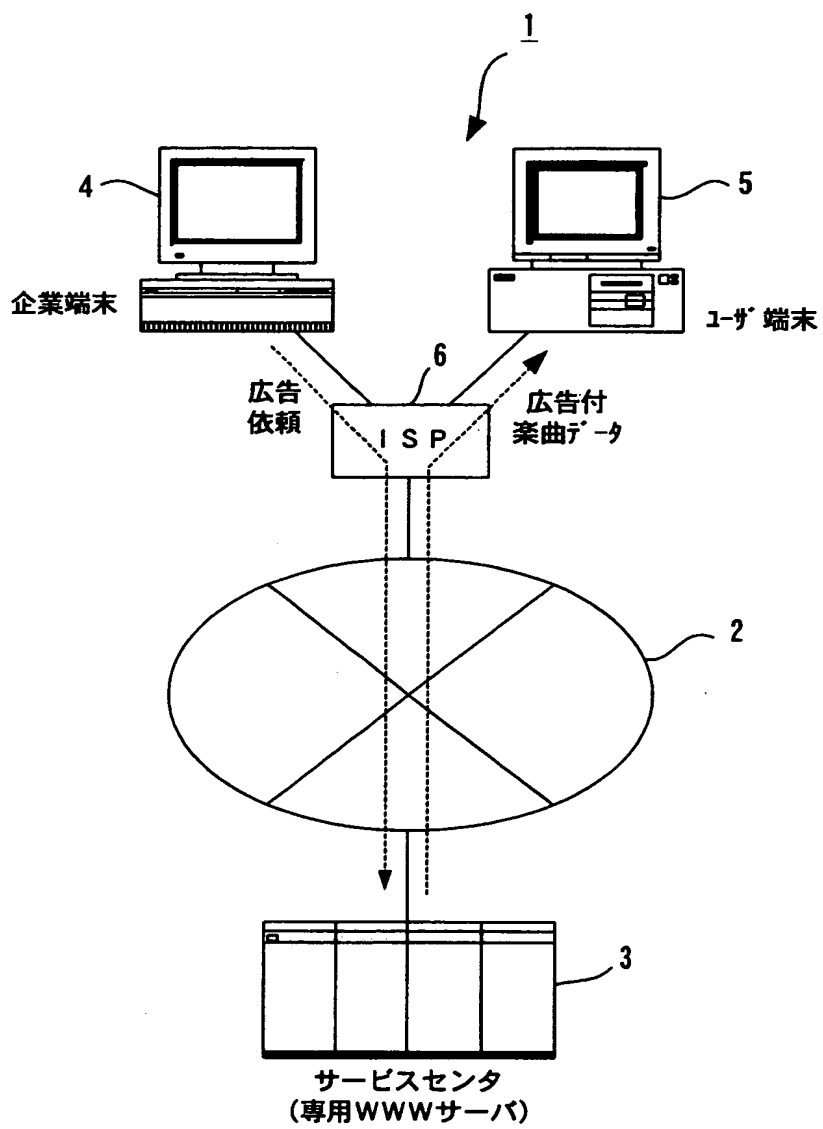
【図 7】 第 2 実施例の広告配信システムの具体的運用を表す説明図である。

【符号の説明】

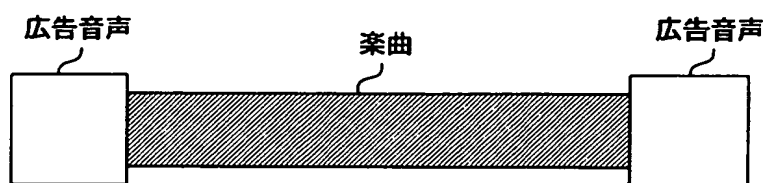
1・・・広告配信システム、 2・・・インターネット、
3・・・サービスセンタ、 4・・・企業端末、 5・・・ユーザ端末

【書類名】 図面

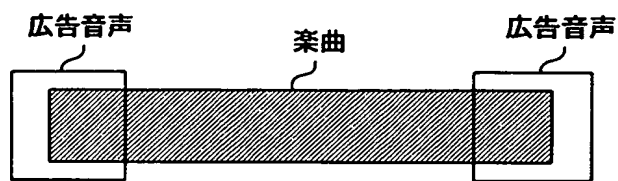
【図 1】



【図 2】

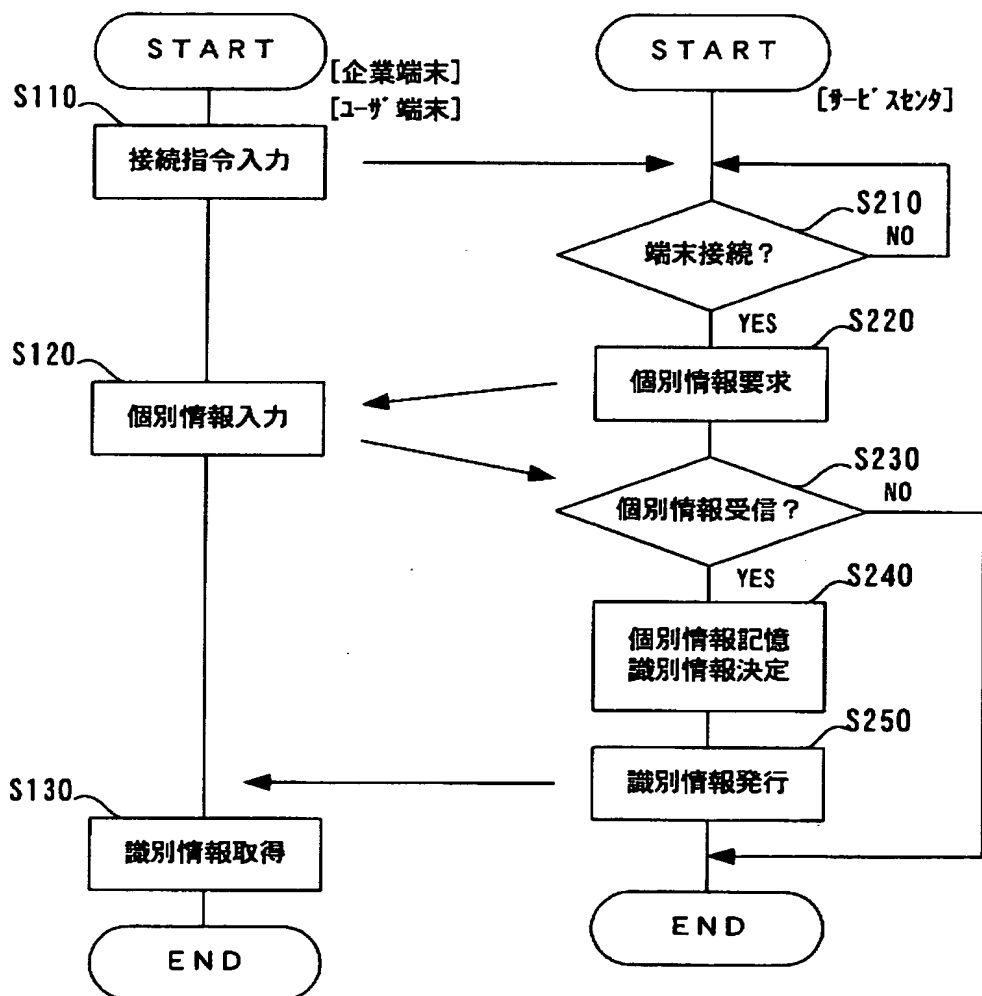


(a)

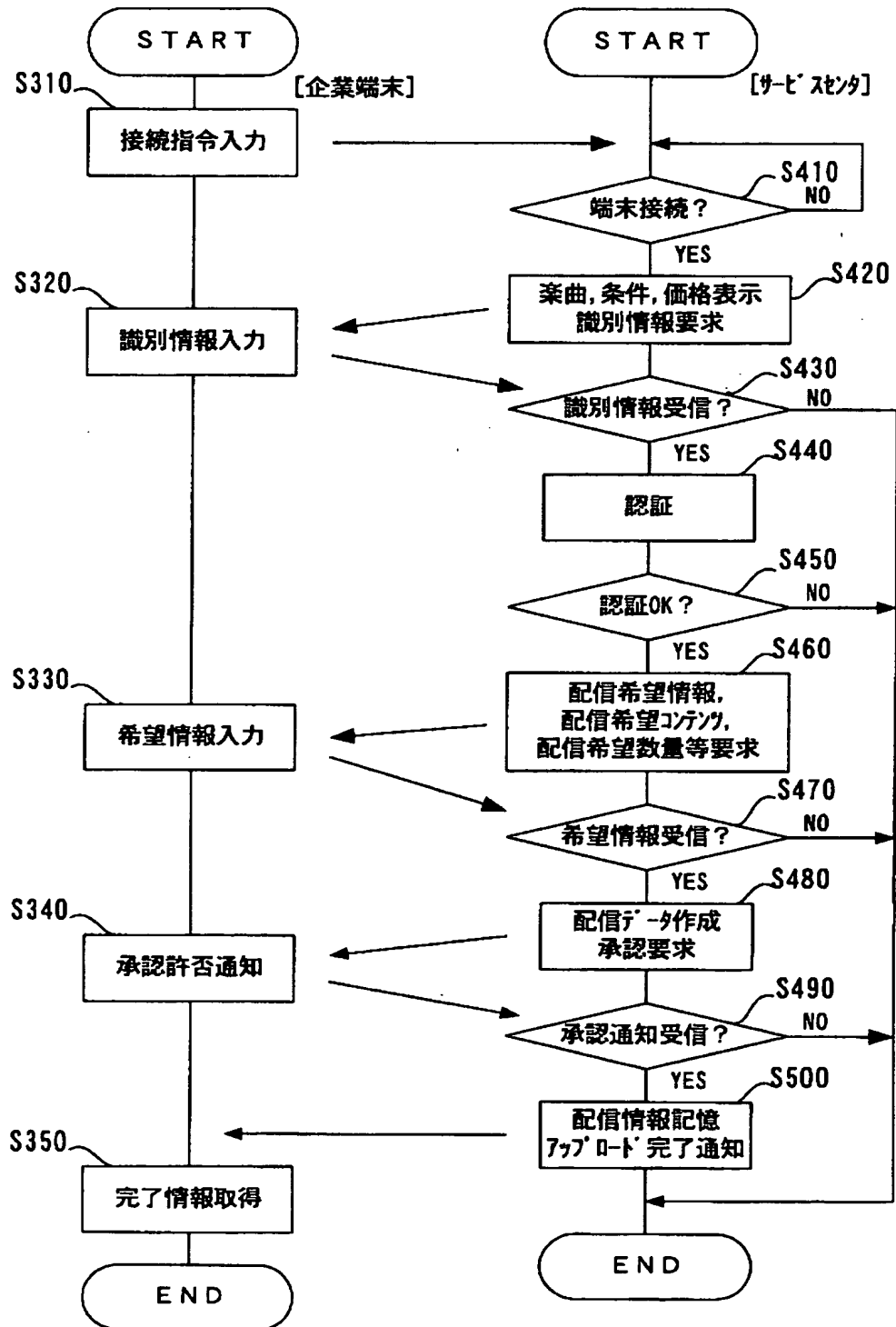


(b)

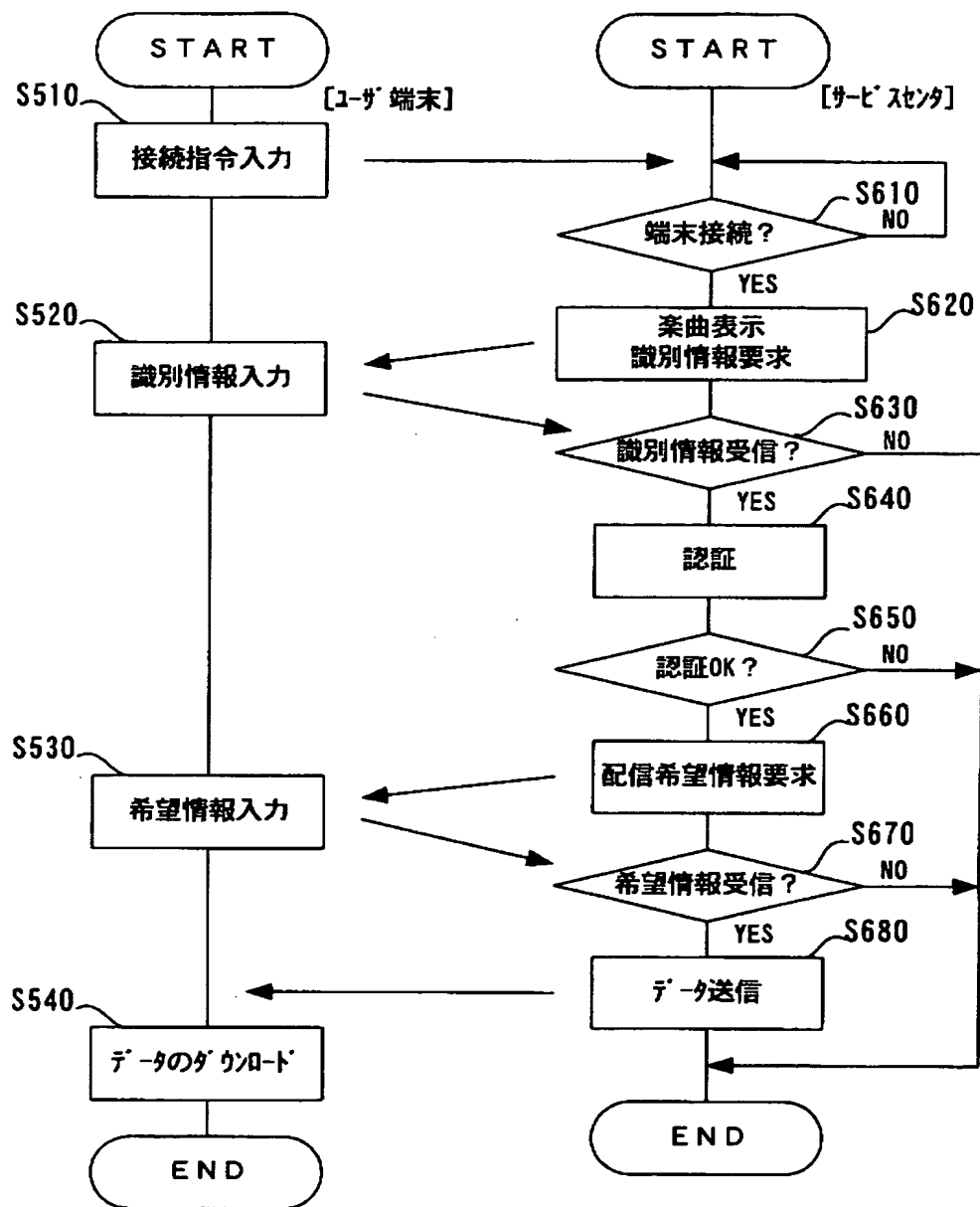
【図 3】



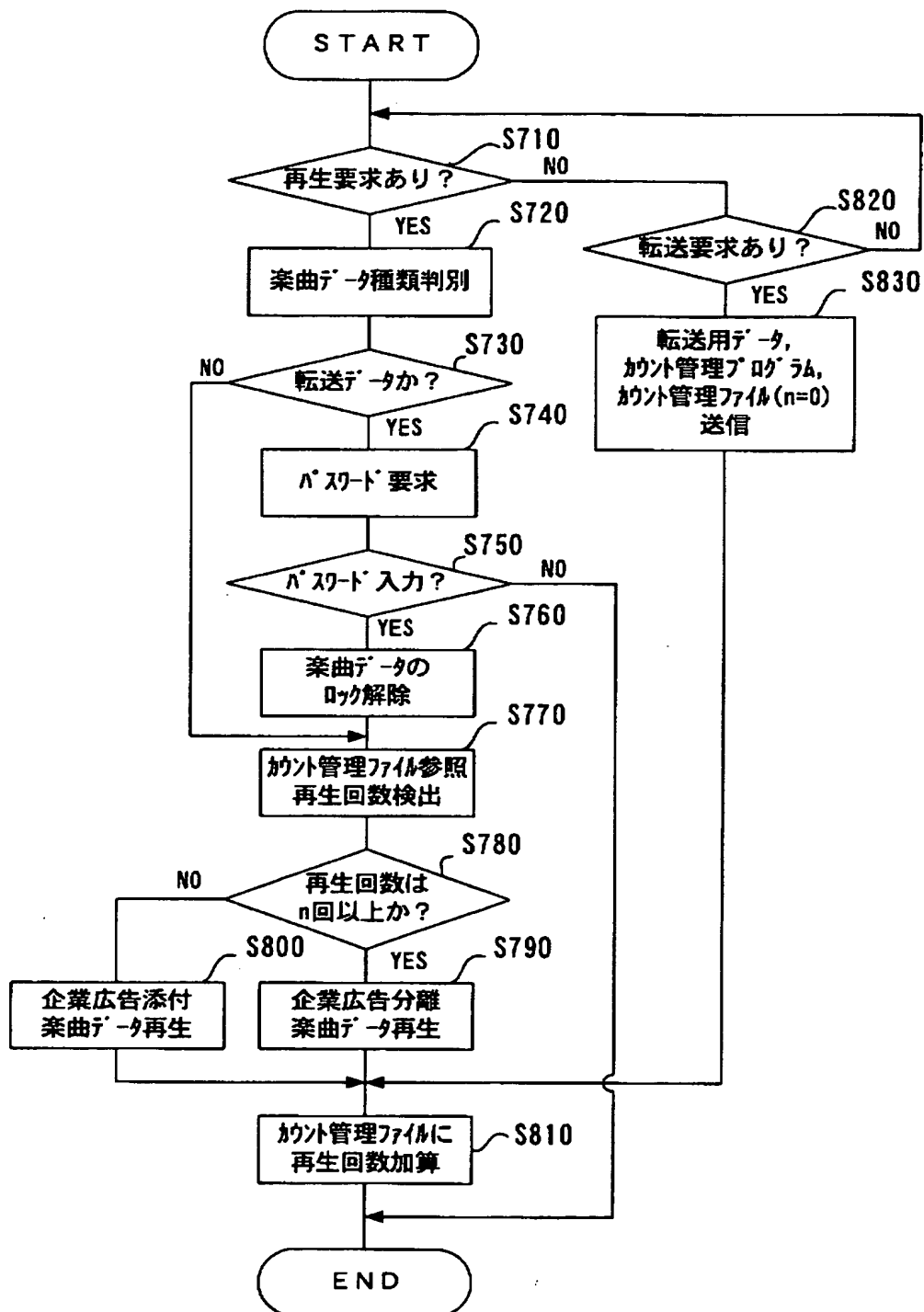
【図 4】



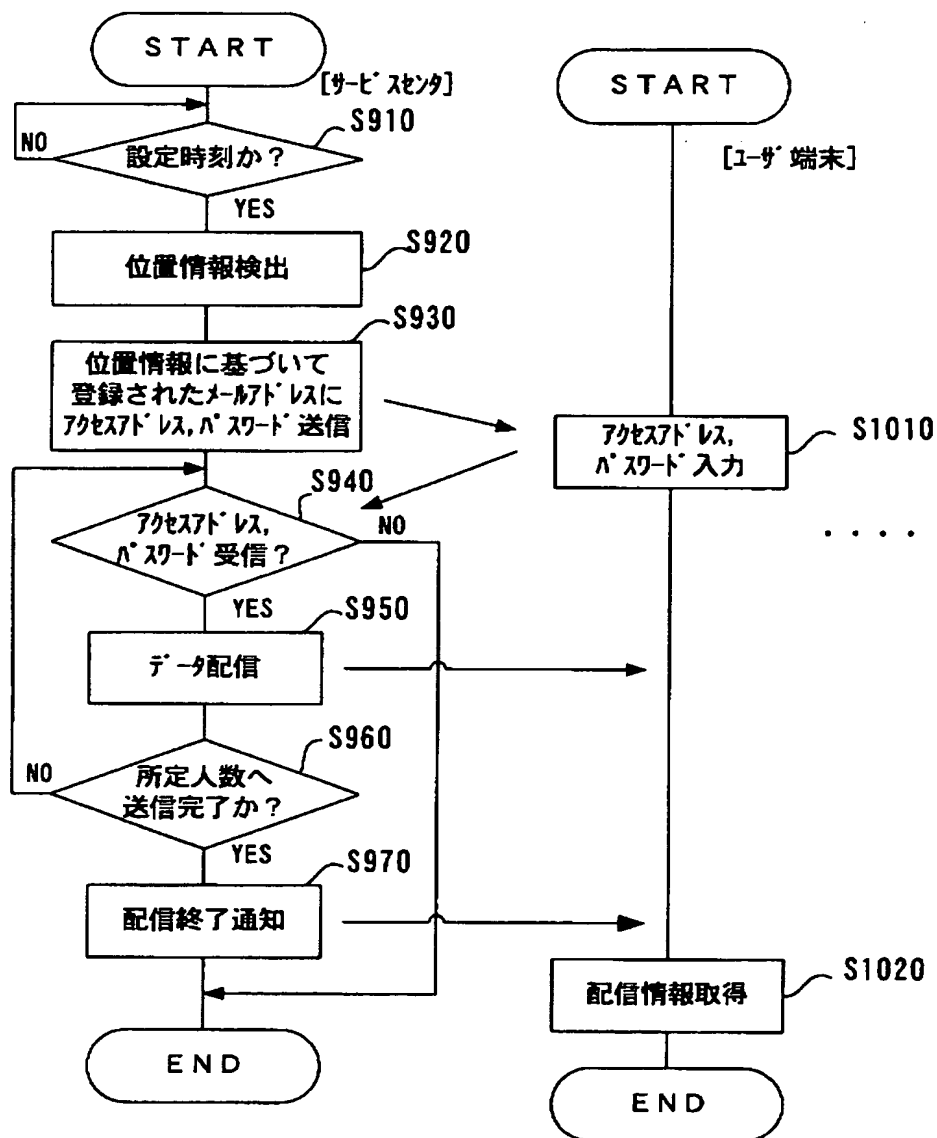
【図 5】



【図 6】



【図 7】





【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 デジタルコンテンツ等に併せて広告情報を配信するシステムの構築において、ユーザ、広告主、著作者の利益となり、それにより、情報通信産業の活性化を図ることができる広告配信システムを提供する。

【解決手段】 サービスセンタ 3 からユーザ端末 5 に配信される配信データは、企業がその宣伝広告のために選択した特定の楽曲に広告音声を合成して形成された楽曲データとして構成されている。具体的には、楽曲の最前部分及び最後部分に広告音声が部分的に重ねられて構成されている。このため、当該楽曲データが再生されると、楽曲と共に広告音声が流れるようになっている。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [500212734]

1. 変更年月日 2000年 5月 9日

[変更理由] 新規登録

住 所 愛知県名古屋市緑区鳴海町字砂田3番2

氏 名 松川 幸弘